

コラム③

クロツバラ (クロウメモドキ科) の産地整理

河原(2017 北方林業 68) で初めて道内分布が報告されたクロツバラ *Rhamnus davurica* var. *nipponica* は、文中に詳細な場所はなかった。直接、河原孝行氏に生育地を確認したところ標茶町駒ヶ丘公園(国土地理院 2.5 万分の 1 地形図名: 標茶)、標茶町京都大学研究林(同: 泉川) の 2 箇所を教わり、2017 年 8 月 5 日に駒ヶ丘公園でクロツバラを確認した。この際は調査時間がなく、京都大学研究林の方は訪れなかったが、その後の調査により確認された産地を報告する。

2020 年 9 月 19 日に訪れた足寄町螺湾本町の林(同: 螺湾) で 2007、2013 年にエゾノクロウメモドキ *R. japonica* と整理していた個体は、葉が大きく形態も違うクロツバラであった。その後、同地周辺で過去に記録していたエゾノクロウメモドキ産地を再度確認したところ上螺湾、上利別と陸別町宇遠別の 3 箇所

で確認できた。10 月 6 日の調査では津別町本岐、同町二又、浦幌町活平でも確認できた。クロツバラは目立たないが、道東各地に生育しているものと思われる。10 月 8 日の北海道大学総合博物館での標本調査では藤田玲氏が鶴居村久著呂原野で採集した標本 1 枚が収蔵されていた。

改訂増補・日本の野生植物 2: 322 のクロツバラの葉の長さは 5-12cm、幅は 2-4cm である。エゾノクロウメモドキの葉の長さは 5-10cm、幅は 2-4cm とクロツバラと余り変わらないが図 1 のようにクロツバラの葉は細長く、図 2 のエゾノクロウメモドキの葉の多くは先端部の幅が広い倒卵形であり、見た目がはっきり違う印象だった。確認箇所が多くなり見慣れたので車で走りながらでも探せるようになった。黒い果実が鳥散布で産地を増やすようでクロミサンザシ同様に林縁部での確認が目立った。(五十嵐 博)



図 1 クロツバラ 2020. 9. 19
足寄町螺湾本町



図 2 エゾノクロウメモドキ
2020. 9. 25 恵庭市恵庭公園